

国際ロータリー第2660地区
ガバナー

大谷 透



2月は世界理解月間です。RIはロータリーの創始者ポール・ハリスが3人の友人と最初に会合を持った1905年2月23日を「世界理解と平和の日」とし、この日に始まる1週間を「世界理解と平和週間」と決めました。そして2月は「世界理解月間」と指定されています。

この月間中に、世界の各RCは国際平和に不可欠なものとして、理解と善意を強調するプログラムを行うよう要請されています。これまでロータリーが積み重ねてきた国際理解、友情、平和への貢献を認識し、更なる推進を強調する月とすることが求められています。

草の根レベルのロータリアンが国際的な友好関係を通じて平和をリードする勢力となることが期待されています。当地区では幸いにも殆んどどのクラブが独自の世界社会奉仕(WCS)プロジェクトを毎年実施しています。是非そのプログラムに参加し、現地の人々との交流を通じて「世界理解と親善・平和」を体感してください。WCS事業は担当委員だけのものではないのです。

ロータリー財団は強調事項として水の供給、貧困飢餓からの救済、識字率向上などへの同額補助金使用によるWCSプロジェクトを奨励し、世界平和フェローの育成やポリオ撲滅への資金援助など、世界平和を推進するための多くの機会を提供します。

RIは「国籍を異にする市民同士の相互理解を

通じて国際平和を追求する」ためにいろいろなプログラムを提供しています。ロータリー青少年交換、研究グループ交換(GSE)、国際親善奨学生などの国際親善大使としての草の根レベルの国際交流です。第2660地区も熱心にホームステイによる市民レベルでの国際交流に取り組んできました。その中で、私たちが特別な思いを込めて毎回実施しているのが「ヒロシマ訪問」です。平和記念資料館がアメリカも含めて、各国の若者に感銘を与えたのは、「誰かが誰かを声高に非難するのではなくて、ただ、ただ、このような不幸な出来事が世界で繰り返されてはならない」ことを、冷静に節度ある展示で訴えていることでした。

ヒロシマの慰霊碑については「過ちは繰り返しませぬから」という文面を、主語不在と批判する向きがあります。主語がなくても意味が通じるのが日本語です。この場合主語は万人に当てはまり、この悲惨な出来事がこの世界に二度とあってはならないという思いがこの慰霊碑に、あらゆる主義主張を超えて表現されていると思います。

「恐れ」よりは「希望」を、「争い」よりは「共生」を、「非難」よりは「友好」を。昨年4月、核兵器廃絶を訴えたオバマ大統領のプラハ演説以来、世界は大きく動き始め、9月の国連安保理の「核なき世界」への決議の一日でも早い実現を夢見ます。